

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 4月 2日現在

機関番号：17102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820045

研究課題名（和文） 近・現代文学における知的障害者表象に関する基礎的研究

研究課題名（英文） A fundamental study on a representation of a person with mental retardation in modern or contemporary literature

研究代表者

河内 重雄 (KOUCHI SHIGEO)

九州大学・人文科学研究院・専門研究員

研究者番号：10581530

研究成果の概要（和文）：

文芸雑誌を1ページ毎めくすることで、知的障害者が描かれている作品をリストアップする調査研究は、『群像』、『早稲田文学』、『新潮』、『新小説』、『太陽』、『文芸倶楽部』など、その大部分を終えることができた。

また、教育など文学以外の領域の、知的障害者観の形成に関わりがある著作の調査・リストアップも飛躍的に進み、戦前の特殊学級における教育の実態や、教育にあっていた教師達が参考にしていただいていた図書等が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

The research detailing a work in which a person with mental retardation is represented has been largely completed by turning the pages of such literary magazines as “a lively crowd”, “Waseda Bungaku”, “Shintyo”, “Shinsyosetu”, “Sun(Taiyo)”, and “Bungeikurabu”.

In addition, in other areas of study than literature such as education, an investigation into and listing-up of writings on a formation of a view of a person with mental retardation also progress at a tremendous rate, and the circumstances of education in special classes for physically or mentally handicapped children prewar and reference books to which teachers turned have been discovered.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,130,000	339,000	1,469,000
2011年度	910,000	273,000	1,183,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,040,000	612,000	2,652,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：知的障害

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、平成21年12月に、『知的障害者表象の文学的研究—知的障害者や

人間はいかに語り得るか』というタイトルで博士論文を九州大学大学院に提出した。博士論文では、九州大学の松本常彦教授、辛島正

雄教授のご指導のもと、不十分ながら、データベース「知的障害に関する記述を含む作品・事項一覧」を作成し、期間内であたうかぎり、知的障害者が描かれている文学作品を分析したところ、いくつかの文学作品が、現実的には疎外され続けている知的障害者に、人間としての豊かさをみたり、普遍性を帯びた存在として描いているという事実突き当たった。例えば、芥川龍之介「偷盗」（『中央公論』大正六年四月・七月）では、「白痴」の「阿濃」がみる夢は「そこでは、一切の悪が、眼底を払って、消えてしまふ。」とされており、「白痴者」に豊かさや普遍性が見出されている。

近代以降、西洋の精神医学などが日本にもたらされ、明治20年代に「idiot」の翻訳語としての「白痴」という語が実体性を次第にもつようになった。医学や教育、文学など、どのような領域においても、「白痴」について語ることは、直接的、間接的に人間とは何ぞやという問題と関わることになった。

そのようななかであって、医学や教育、政治などの領域では、戦前までは「白痴者」を非人間的な存在としてまなざしているのに対し、文学の領域では、現代まで一貫して「白痴者」に人間的な豊かさや普遍性をみているのである。

例えば、国木田独歩「春の鳥」（『女学世界』明治37年3月）には、「六蔵の死を見て、其生涯を思ふて、其白痴を思ふ時は、この詩（ワーズワースの詩一河内注）よりも六蔵のことは更に意味あるやうに私は感じました。」といった一節がみられ、芥川龍之介「偷盗」（『中央公論』大正6年4月・7月）では、「白痴」の「阿濃」がみる夢は「そこでは、一切の悪が、眼底を払って、消えてしまふ。」とされており、「白痴者」に豊かさや普遍性が見出されている。

しかしながら、博士論文でテーマとした、文学作品において知的障害者に人間的な豊かさが見出されるということは、知的障害者表象の側面に過ぎないのではないか。作成した「知的障害に関する記述を含む作品・事項一覧」は、限られた期間と予算内でのものである。ゆえに、このデータベースが充実することによって、知的障害者表象の多面性を明らかにすることができるのではないだろうか。

このように反省し、これまで前例のない、日本近・現代文学における知的障害者表象の通史的・体系的な研究を進展させる上で、データベースを発展的に構築する必要があると考えたこと。これが、研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究の全体的な目的は、文学作品における知的障害者表象を通史的・体系的に研究することで、近代以降の日本の知的障害者観・人間観を多角的に明らかにしつつ、その知的障害者表象の諸特徴を手掛かりにして、これから知的障害者や人間、私たちの社会の諸制度をどのように考えることができるかを、検討することである。

そのために、九州大学が所蔵する、博士論文執筆時に未調査の雑誌である『群像』、『文学界』、『中央公論』、『早稲田文学』などの調査、および、九州大学では調査をし得ない雑誌である『オール読物』、『小説新潮』、『小説すばる』、『小説宝石』、『小説現代』、『文芸倶楽部』などの調査を通して、知的障害者が描かれている文学作品および医学や教育、社会学などの領域の知的障害者について書かれている文献・記事の調査・リストアップをすること。つまりは、データベースを構築することが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は、日本近・現代文学における知的障害者表象の多面性を明らかにする上で必要不可欠な、データベースを構築することを目的としている。

データベースの構築は、

①博士論文執筆時に未調査である、九州大学が所蔵する雑誌『群像』、『文学界』、『中央公論』、『早稲田文学』などの調査、および、九州大学では調査をし得ない雑誌である『オール読物』、『小説新潮』、『小説すばる』、『小説宝石』、『小説現代』、『文芸倶楽部』などの調査を通じて、知的障害者が描かれている文学作品を調査・リストアップした上で、分析を加える

②国立国会図書館などで、医学や教育、社会学などの文学以外の領域の、知的障害者言説の形成に関わりがある文献・記事を調査・リストアップした上で、分析を加える

以上の2点を柱としている。

調査とはこの場合、「白痴」、「痴愚」、「魯鈍」、「精神薄弱」、「低能」、「知的障害」、「知恵遅れ」など、知的障害を表す言葉を、『群像』、『早稲田文学』、『新潮』、『新小説』、『太陽』、『文芸倶楽部』などの博士論文を執筆した時には調査できなかった文芸雑誌などを1ページ1ページめくって、拾っていく作業のことである。

雑誌の目次を見ただけではリストアップすることのできない作品は無数にあり、このような作業は不可欠である。知的障害者が描かれていることを確認した後に、複写し、分析を加えていく。以上が、本研究における研

究の方法の概要である。

4. 研究成果

2年間の調査研究により、文学史上有名な作家である、三島由紀夫、安部公房、幸田露伴、田山花袋、上司小剣、森鷗外、中島敦、宮本百合子、久生十蘭、夢野久作、北杜夫、檀一雄、遠藤周作、有島武郎、そして童話作家の小川未明などの、知的障害者が描かれている文学作品を数多くリストアップすることができた。これらの作家たちは、檀一雄や北杜夫、夢野久作を除けば、これまで知的障害者表象にあまり縁がないと思われていた作家と言えよう。これらの作家の文学作品で、知的障害者がどのように描かれているかを、詳細に分析することができた。それによって、知的障害者表象という観点から、これらの作家の作品を研究する必要性のあることを、明らかにすることができた。

また、森茉莉、鼓眞砂子、浅見光昭、福本多豆子、前田昌宏、桐山襲、岩崎清一郎など、文学史的には無名と言わざるを得ない作家の文学作品も、多数リストアップし、分析を加えることができた。

日本近・現代文学における知的障害者の描かれ方・語られ方を、通史的・体系的に研究するための準備は、この2年間の調査研究によって、十分に整えることができたと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計1件)

- ① 河内重雄、三島由紀夫「月澹莊綺譚」論一見るといふ行為のもつ意味・暴力性一、平成23年度九州大学国語国文学会、23年6月5日

[図書] (計1件)

- ①河内重雄、九州大学出版会、日本近・現代文学における知的障害者表象、2012、416

[その他]

ホームページ等

- ①九州大学出版会におけるホームページ
<http://kup.or.jp/booklist/hu/literature/1068.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河内 重雄 (KOUCHI SHIGEO)

九州大学・人文科学研究院・専門研究員

研究者番号：10581530

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：